自衛隊群馬地方協力本部

JAPAN SELF DEFENSE FORCE GUNMA PROVINCIAL COOPERATION OFFICE

朝雲新聞個人投稿賞を表彰

群馬地方協力本部（本部長・防衛事務官井ノ口哲也）は令和3年3月24日、群馬地本（前橋）において大原聡美さんが投稿した「夢への背中」の朝雲新聞個人投稿賞の表彰式を行った。

投稿記事は海上自衛隊へ入隊した娘の進路決定から入隊までの母親の心境を綴っている。

表彰式では朝雲新聞社から贈呈された表彰状と記念盾を本部長が手渡した。

受賞した大原さんは「この度は栄えある朝雲個人投稿賞を頂いたことにつきまして、とても光栄であるとともに表彰式を挙行して頂いたことに対して心から感謝いたします。今後とも、多くの人達のお力添えを頂きながら、娘が仕事に励むことを心より楽しみにしております。ありがとうございました。」と語られた。

現在、大原聡美さんのご息女、大原梨奈さんは海上自衛隊掃海母艦「うらが」にて勤務している。

群馬地本は今後も入隊者家族と良好な関係を維持して、手厚いサポートを実施していく。

信じた道をまっすぐに

堀口　知美（空自入隊者母）

まさか、わが娘が航空自衛隊へ入隊することになるとは1年前には思いもしませんでした。

娘の将来の夢は警察官。警察官への憧れがあるが体力に自信もなく、警察事務にしようかと悩んでいた高校2年生の冬。娘は警察で公安系合同説明会に参加しました。その時、女性の担当広報官との運命的出会いがありました。

自衛隊の話を聞き、その日のうちに「自衛隊もおもしろそう！受けてみようかな」と言う娘。私は正直驚きました。広報官から聞いた話を一生懸命話す娘の目は楽しそうでした。その時から、私自身も広報官へ話を聞きに行き、資料を読んで勉強しました。

この時点で私は、警察か自衛隊どちらか合格した方へ進めばよいかと思っていました。

一般曹候補生合格発表の日、担当広報官から「合格しました！航空の合格は蹴ったら勿体ないですよ。なかなか入隊できないです。」という話を聞き、そこから自衛隊について更に調べ始めました。

一方で、警察の最終面接が終了した時、もし警察も合格したらどうするかについて、現役警察官や航空自衛官の保護者に話を聞いたり、自衛隊のガールズトークにも参加するなどして、どちらの選択が娘にとってよいのか大変悩みました。

しばらくして警察の合格発表がありました。

娘も私もたくさん悩みましたが、最後は娘が自身で決断しました。私は、「自分の人生悔いの残らない様に、親はどちらを選択しても応援する」ということを伝えました。

娘は警察へ辞退の連絡をし、担当広報官へ航空自衛隊で頑張りますと連絡をしました。

担当広報官と初めてお話をした時に、「自衛隊はやりがいのある仕事ですよ！」と勧めて下さった姿がキラキラして自信に満ち溢れていて、大変印象的でした。また、何度もお会いしてお話をさせて頂く中で、まっすぐな人柄にも惹かれました。担当広報官のように清明正直な人に娘もなってほしいと願い、3月24日、巣立つ娘を見送りました。

群馬地方協力本部での職業ガイダンス

自衛隊群馬地方協力本部前橋募集案内所（所長　只野1尉）は、4月11日（日）、群馬地方協力本部庁舎において、参加者8名に対し自衛隊の概要及び魅力について紹介した。

陸・海・空自衛隊の任務、職種と採用制度、活動内容及び魅力などを説明することで、自衛隊に対するきつい、厳しい、危険といったイメージが先行しがちな部分を払拭して、それぞれの理解を深めてもらった。

職業ガイダンス終了後、広報官を交えた懇談形式の質疑応答を実施し、参加者からは「今日の職業ガイダンスを聞くまでは、自分の学歴に自信がなく採用試験に足踏みしていたが、採用試験へチャレンジしてみようと思った。」「自衛隊の職種を知ることができ、参加してよかった。」などの声が聞かれた。

なお、本職業ガイダンスを行うにあたり新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、午前（一般曹候補生、自衛官候補生）と午後（一般幹部候補生）の種目ごとに分け、人数制限を設けた。

群馬地方協力本部は、今後も職業ガイダンスなどの各種イベントを活用して、一人でも多くの募集対象者に自衛隊の魅力と理解を積極的に発信し、募集広報活動に取り組んでいく。